

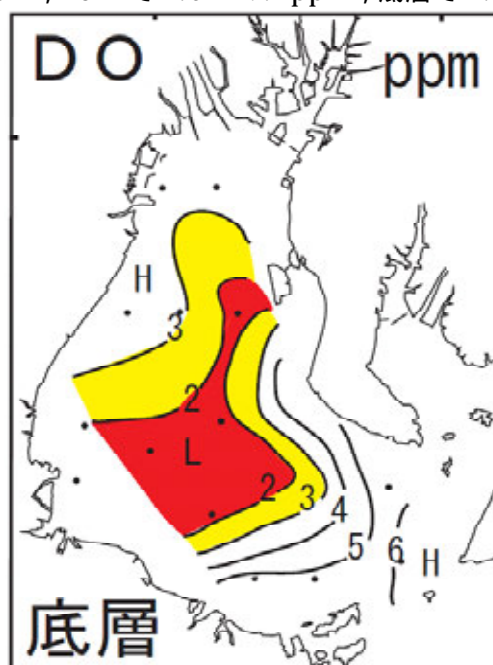
伊勢湾貧酸素情報（第1報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

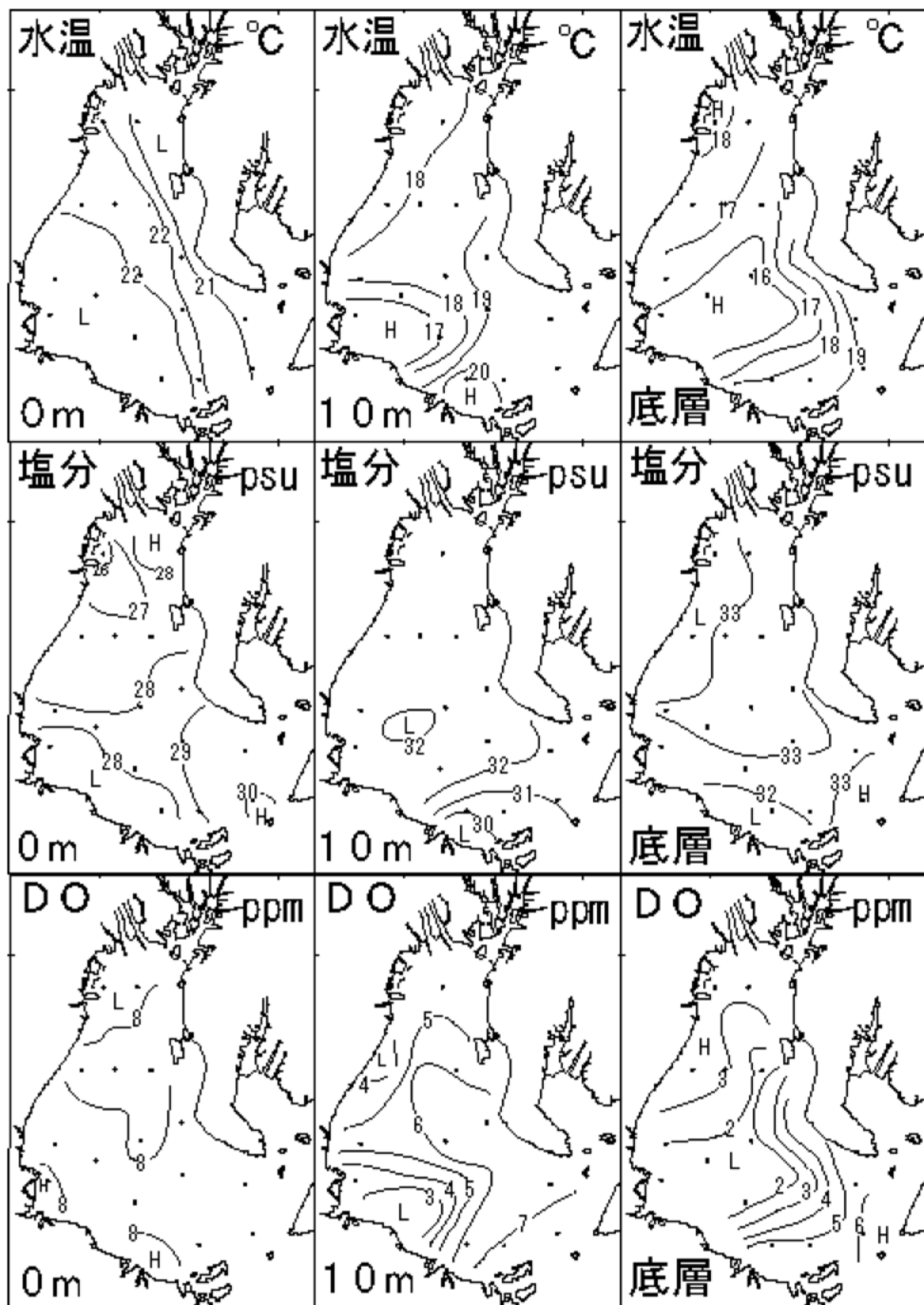
伊勢湾の底層では溶存酸素量の低下が始まり，湾中央部を中心に広い範囲に2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

6月8日の調査結果（別紙参照）

6月8日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で20.5～22.3℃、10mで16.5～20.3℃、底層で15.4～19.3℃の範囲にあり、表層と10mではほぼ平年並みからやや高め、底層では平年並みで中央部はやや高くなっていた。塩分は表層で25.84～30.03、10mで29.02～32.84、底層で31.60～33.62の範囲にあり、全層で平年値より高い測点が多かった。DO（溶存酸素量）は表層で7.38～8.6ppm、10mで2.9～7.4ppm、底層で1.1～6.1ppmの範囲にあり、表層では平年並みから低め、10mでは湾奥から中央部で平年並みからかなり低め、湾口で平年並みからやや高め、底層では伊勢湾中央部の深所を中心に2ppm以下の貧酸素水塊が形成されており、貧酸素水塊が観測された範囲は平年同期よりも広がった。調査時は、表層で高温傾向、底層では低温・高塩分傾向にあるため、上下混合が起こりにくく、底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあったと考えられ、今後、その動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布



水温・塩分・DOの水平分布
(2009年6月8日)